本を選ぶ

NO.497 2026年(令和8年)10月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

https://www.las2005.com

本社 〒102-0084 東京都千代田区二番町 1-2-235 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぽわん>著者は誰でしょう？
・続 君たちは何を食べていたか
・少年少女のために
・少年少女のために－続－

●司書の眼（第63回）
－すがすがしい風が吹いてくる－

●DMかたろぐ

ろん・ぽわん

続 君たちは何を食べていたか

前回の続きで、『君たちはどう生きるか』の食べ物エピソードから話をはじめます。

コペル君が、お正月に水谷君の品川の海の見える高輪の広壮な邸宅に招かれたことを覚えておいででしょうか。その日の食卓の上には「温室咲きの見事な花が盛りあげてあり、テーブル掛けは真っ白でした。その上にずらりと並んでいる立派なナイフやフォーク、銀のさじ ― この日の御馳走は正式の御馳走だったのです」。けれども、コペル君たちは、「うまいのか、まずいのかわからず」、「食事が済んだとき、（略）、折角の御馳走になりながら、実はほっとしました」。

東京の郊外に住む主人公コペル君は、電車で中学校に通っています。同書が最初に世に出た昭和12年当時では尋常小学校の６年間が義務教育でしたから、中学校といっても、現在のそれとは違います。

コペル君には、３人の親友が学校にいます。前回、コペル君がそこで、生まれて初めて鯛焼を食べた小石川近辺の豆腐屋さんの長男浦川君、高輪の広壮な邸宅に住む実業家の次男水谷君、それに北見君です。

鯛焼と真っ白なテーブル掛けの上に飾られた温室咲きの見事な花の対比、この一例でもおわかりのように、同書はコペル君と３人の親友が属している階層の違いをくっきりと見せています。だからこそ、そうしたことにとらわれずに芽生えて、強く結びつく友情の世界が、主人公と同じ年頃の多くの読者を長い歳月、惹きつけてきたのでしょう。では北見君は、どんな家庭の子弟なのでしょうか。実は北見君のお父さんは、「予備の陸軍大佐」でした。「偏狭な国粋主義や反動的な思想を越えて、自由で豊かな文化を伝えようと」編まれたシリーズを代表するような同書の主人公の親友のひとりが職業軍人の息子という設定には、時代を感じます。しかし、陸軍大佐といっても現役ではなく予備役であることや北見君の家庭環境などについては、ほかのふたりの場合と違ってほとんど具体的な描写をしていないのが、共著者の配慮のほどというものでしょうか。

昭和23年、初版から10年を経て「少国民文庫」は執筆陣も入れ替えて再編され、我らが『君たち』も「ガラリと一変した」世の中に吉野源三郎著として再登場しました。鯛焼と正餐の逸話は残りましたが、北見君のお父さんの職業についての記述は消えました。けれども、同書の骨格そのものにも影響を及ぼしたと思われるのは、現実世界で中学校の３年間も義務教育になったことで、「中学生」の意味が変わってしまったことでしょうか。またそのころになると、青少年のために新しい時代に見合う質の高い本をという出版活動もはじまり、コペル君はまたまた時代の波に洗われることになるのですが・・。（編集部）

No.150（1997年11月20日）掲載

司書の眼 第63回

――すがすがしい風が吹いてくる――

鷹野　祐子

勤め先の図書館で、ＡＩ関係の新刊書を集中的に購入していたら、配架する場所がなくなってしまった。どこか除籍できる棚はないかなと探したところ、1960-80年代の社会学と心理学の書架が目に留まった。医学系図書館なので米国医学図書館分類法（ＮＬＭ分類法）を使って分類しているが、社会学系の資料はＱ（基礎医学）やＷ（医学）では分類できない。無理やりＷＭ（精神医学）で分類していたりするが、ＮＤＣを利用するのがいいか、洋書が中心なのでアメリカ議会図書館分類表（ＬＣＣ）のＢＦ（Psychology（心理学））がいいか、などと考えつつ埃が積もる書架を眺める時間が増えた。

ＡＩ vs 専門家

図書館の棚には限りがある。新しい本を入れるためには、古くなった資料、利用されなくなった資料を除籍しなくてはならない。ところが除籍対象の心理学の棚を前にすると、これがなかなか難しい。３年で古くなるといわれるゲノム医学と違って、出版年が古いすなわち内容が古いとは限らないからだ。その後の研究の出発点となった本や、現在の考え方を形づくった本もある。新しい本の参考文献をたどれば、何十年も前の一冊に行き着くこともある。そういう古典本を、国内他の機関の所蔵状況と古さだけで除籍してよいものか。とはいえ、すべてを一冊ずつ調べていたら仕事が進まない。そこで今回は、除籍候補資料リストをＡＩに読ませてみた。「この中から、医学図書館が心理学・社会学の古典として蔵書に残すべき資料を選んで」。ずいぶん便利な時代になったものだ。同時に心理学系を専門とする先生にも現物を見てもらい、残すべき資料を選ぶことにした。

ＡＩが選ぶ古典と、人が選ぶ古典は同じになるのだろうか。ＡＩが引用を引きつつ結果リストを出力する。一方、その分野を長く研究してきた人には、「この本から考え方が変わった」「今の研究につながるのは実はこの本だ」という、学問的な系譜や流れが見えているようだ。一部の本の結果を見比べると所蔵すべき資料はほぼ重なり、ＡＩの方が慎重で多めに残しておけと言っている感じがした。

獲得していく

心理学系の古い本を手に取っていると、子どもが生まれたころのことを思い出す。あのころは発達心理学の本をずいぶん読み、なかでもピアジェをはじめとする乳幼児の発達についての蔵書は片端から読んだ。新生児の目の機能と認識の発達、色の認識、目の前から物が消えたとき、見えなくてもまだ存在していると理解するのはいつごろなのか。大人の表情や動きをどう受け取るのか。本に載っている実験をわが子にも試し白黒モビールを作ったりした。小さな反応に一喜一憂し、昨日までできなかったことが今日はでき、昨日まで気づかなかったものに今日は気づく乳幼児期の発達は、本に書かれた道筋を一段ずつ上っていくように思えた。それらは初めて子どもを育てる私に少し先を見せてくれる地図のようだった。

しかし、子どもが大きくなるにつれて、発達状態が地図に収まらなくなってきた。学童期では個人差も大きく、できるようになったことより、うまくいかないことのほうが目につく。そして日々の生活を回すだけで精いっぱい。いつの間にか本を読まず状況の変化にその都度対応する日々となった。

ちょっと前に「ヘリコプターペアレント」という言葉がはやった。子どもの頭上をヘリコプターのように旋回し、何かあればすぐに降りてきて介入する親を指す。就職の内定に親の承諾を求める企業があるという話を聞いたときにも驚いたが、最近ではインターンシップの面接に親が同席する

例まであるという。大学生ともなればとうに大人に近い。それでも親が先回りして道を整え、親の見ている地図に子どもを軌道修正しようとする。そんな「いい子」ばかりで、子どもが成長しなくなったのか、親が子離れできなくなったのか。

それとも、社会の側が「大人になる時期」を後退させているのだろうか。そう考えると、発達心理学の本に書かれている階段のその先が気になってくる。「大人」が完成する条件とは何か。現実の人間は、ある日を境に完成品になるわけではない。大人になっても迷い、誰かに頼り、目の前の小さな楽しみに夢中になる。むしろ大人になるほど、何が「できた」のかは見えにくくなっていく。還暦は60年で干支が一周して生まれ直し、赤ちゃんに戻るというが、また初めから成長できたらどんなに楽しいだろう。

失われていく

副業で子どもたちに国語を教えていて、最近気になることがある。簡単な言い回しでも意味がわからないという。語彙力がないのだろうか。

中学生に「身体を使った表現」を挙げてもらうと、なかなか出てこない。実際に目を細めてみたり、肩を落としてみたりすると、「ああ、そんな言い方もあるね」となる。意味をまったく知らないわけではない。しかし、生活からの実感や、身体の感覚から自然に言葉が出てくるというより、どこかで見聞きした表現を知識として覚えているように見える。今の子どもたちが触れる言葉の量そのものは、決して少なくはない。動画を開けば、朝から晩まで誰かが1.2倍速で喋り、字幕もついている。ＳＮＳにも短い言葉が絶え間なく流れてくる。ただその多くは話し言葉で、「驚いた」「すごい」「やばい」といった強調したい感情をストレートに共有する。脳は「次はもっと面白いかもしれない」と期待し、スクロールして次々に新しいテキストや映像を浴び、たくさんの言葉に触れているようでいて、自分で使える言葉はそれほど増えていない。聞いたことがある言葉は増えても、意味を自分に落とし込めていないので、中から取り出せないのだ。

若者が文字を読まなくなったと言われて久しいが、マンガは結構読んでいる。かろうじてオノマトペには触れていても、書き言葉は今後失われていくだろう。文体の中でしか出会わない言い回しや、会話で使わない動詞や形容詞が少しずつ身体から離れていく。いずれ国語のペーパーテストでは、文章を読ませて論理や語彙力、読解力を測るという方法そのものが、時代に合わなくなる日が来ると思う。

主導権は誰の手に？

ＡＩとのチャットは、最近ではキーボードで文字を打つより話し言葉でやり取りする方向に進んでいるそうだ。ところが話し続けることは意外に難しい。大事なことを耳から聞いても、何かを考えているとそのまま通り過ぎてしまうことがあるし、自分の考えもテキストを見ながら反芻しなければうまくまとまらない。文章なら、書いては消し、言葉を入れ替え、「私が言いたいのはこれだ」にたどり着ける。話し言葉ではそうはいかない。考えている間にも会話は空中に拡散され、話題は先へ進んでしまう。こちらが少し曖昧なことを言えば、ＡＩはそれなりに解釈し、ＡＩからの提案にハイハイ答えているうちに、最初に到達したいと思っていたことは別のことだったと気づく。ふと顔を上げると、ずいぶん遠くまで来てしまったようで、見慣れない景色にしばし呆然とする。ＡＩに丸め込まれた、というのは言い過ぎだろうか。こちらが迷っていると、金の斧ですか銀の斧ですか？ともっともらしい選択肢を差し出し、二択を繰り返しているうちに、いつの間にか行き先が決められている。

考えてみれば、相手と話しながら考えるというのは、かなり高度な作業だ。相手の言葉を聞き、その意図を読み、自分の考えと照らし合わせ、次に何を言われるかを予測しながら、自分の言葉を選んで返す。ときには相手に同意し、ときには踏みとどまり、言葉のラリーを数秒のうちに繰り返している。相手の話をよく聞かず、その場の空気を読みそこない、それでもなるべく波風を立てず

に話を収めることだけを身につけてきた私などは、ＡＩが自信たっぷりに話を進めると、つい「なるほど」と思ってしまう。逆に、こちらの意図をいつまでも誤解しつづければ「もういい」と会話を終わらせる。

かつて、シンギュラリティという言葉とともに、いつかＡＩが人間の知能を超える日が来ると言われていた。人間を超えるかどうかを待つまでもなく、ＡＩは生活の中に入り始め、何かを決めるたびに相談しているだろう。テンプレートを投げてＡＩエージェントに運用してもらう。そうすれば、とりあえず結果は出る。「どうしよう」と考え続けなくてもよくなる。

便利である一方で、少し怖くもある。うまく利用して前へ進んでいるつもりでも、ブラックボックスの導きで、どこへ向かっているのかを自分で判断できなくなるだろう。そんなことを考えていたとき、今年の俳句甲子園で海城高校が初優勝したという記事が目に留まった。

僕らが選ぶ

最優秀句は、

「明日には今日は昨日になる　泳ぐ」

高校生らしい、すがすがしい句だと思った。「泳ぐ」の前のスペースが、カルキ臭のする生ぬるい学校のプールを思い出させる。俳句甲子園というものは、てっきり全国の高校生から優秀な句を募る投稿型の大会だと思っていた。が、句を作るだけではなかった。ディベートというチーム戦で戦っていたのである。五人一組で互いの句を披露し、質疑応答を行う。評価されるのは作品だけではなく、相手の句をどう読み、どこに疑問を持ち、どう問いかけるか。また、自分たちの句についての質問に、どう答えるか。作品そのものと鑑賞力の両方を競う。短歌にも「牧水・短歌甲子園」があるそうだ。

海城高校文芸部がnoteで公開している部誌『潮』Vol. 5には、今年の二つの甲子園に出場した部員たちの記録が載っている。それを読むと、あの句はある日突然、高校生のみずみずしい感性からポッと出てきたものではなく、練りに練った作品だということがわかる。部員たちはそれぞれ何句も作り、句会を重ねる。自分でよいと思った句も人に見せれば、別の読み方をされ、言葉の弱さを指摘される。先輩やＯＢ、顧問から講評を受け、スプレッドシートを活用し、直してはまた読んでもらう。大会にエントリーするところまで残るのは、そうした過程をくぐり抜けた句である。そして大会では、対戦相手の句については、場面を読み取り、問いを組み立てる。自分たちの句に問いが返ってくれば、今度はその意図を理解し、返答しなければならない。

短歌甲子園の記録にも、その応酬が残されている。一首の中のわずかな言葉を取り上げ、「なぜこの表現なのか」「この言葉からそこまで読み取れるのか」と互いに問い合う。作者の意図を説明すれば終わり、というものでもない。先ほど、話しながら考えるのは難しい、と書いたが、相手の言葉を聞き、意図を読み、次を予測しながら、自分の立場を失わずに返す。

それを高校生たちは、十七音や三十一音という、ごく短い言葉を間に置いてやっているのである。苦しんで選び抜かれた言葉なのに、できあがった句や歌には苦労の跡がみえず、考え抜いたことを考え抜いたようには見せない。言葉を足して説明するのではなく、削ったところに読み手が入る余地を残す。そこに、すがすがしい風が通るのだろうか。

風といえば、最近もう一つ、耳に残っている「風」がある。朝の連続テレビ小説『風、薫る』の主題歌、Mrs. GREEN APPLEの「風と町」である。この曲も使われている言葉は驚くほど平易だ。「風」を繰り返し登場させ、人のように扱う。そばにいて、包み込み、ときには背中を押しながら、こちらを見守ってくれている。朝のドラマを見る子どもから年配の人まで、誰にでも届く言葉を意識して選んだのではないか。難しい言葉を知らなければ、豊かな表現はできないわけではない。むしろ、たくさんの言葉の中から、誰もが知っている一語を選び、それをどこに置くか。そ

のほうが難しいこともある。ＡＩなら、「風」についていくらでも説明できるだろう。爽やかさ、自由、変化、旅立ち、希望。頼めば、それらしい比喩もコピーも次々に過去の遺産から出してくるだろう。けれども、きれいに整った文章や、説明の行き届いたコピーは少々食べ飽きた。今後は逆に、ぱりっとした短い言葉、行間をむくめて表現する言葉が強くなるのではないか。

言葉の除籍作業

先日、THE BLUE HEARTS（ブルーハーツ）についての記事を読んだ。そこには、世代を越えて受け渡されてきたＪ-ＰＯＰの「型」を、ブルーハーツがパンク・ロックに取り込んだとあった。それは、はっぴいえんど時代の松本隆が、日本語の七五調を八拍の中に収めて8ビートに乗せたという「黄金律」のことで、それがその後の日本語ロックの基礎となり、忌野清志郎を経て、甲本ヒロトと真島昌利がパンク・ロックの中へ持ち込んだ。それがブルーハーツにつながったという。

言われてみれば、七五調は俳句だけのものではない。日本語を話す私たちの耳には、深くなじんだリズムなのだろう。それが世代を渡りながら、俳句になったり、ロックになったりする。ブルーハーツの歌詞は平易で、くっきりと聞き取りやすく、彼らの音楽は小学生までロずさむ。難しい言葉を並べるのではなく、誰もが知っている言葉を選び、リズムに乗せる。それだから何十年たってもカバーされているのだろう。

言葉は古くなって消えていくばかりではないらしい。古い型を残したまま、器を替えて次の時代へ移っていくのだ。そう考えると、言葉が失われていくとばかり心配する必要もないのかもしれない。たしかに、私たちが触れる言葉は変わってきている。書き言葉のように使われなくなる表現もあるだろう。

一方で、短い動画やＳＮＳ、歌やラップのような別の器の中で、新しい言葉の使い方も生まれている。ＡＩの登場で、文章を作ること自体は驚くほど簡単になった。だからこそ、これから難しくなるのは「作ること」より「選ぶこと」なのではないか。

自分が本当に言いたかったことは何か。どうやったらそれが一番伝わるのか。ＡＩが十案を出したとき、十一案目を自分で考えるか、それとも十案の中から一つを選ぶのか。便利になればなるほど、人間には最後に残すものを決める力が求められる。言葉を選び、削り、人に読まれ、また直す。これからの文章力というのは限られた中で納めるための言葉の除籍作業なのだろう。

Do the hokey pokey

図書館の除籍も、捨てることが目的ではなく、限られた棚の中で必要なものを残すために選ぶ作業である。新しい本だから残り、古い本だから捨てるとも限らない。数年前に購入した本が役割を終える一方で、何十年も前に出版された本が、次の研究のために棚に残る。今回、ＡＩと専門家に選んでもらった心理学のタイトルがかなり重なったことには少し驚いたが、ＡＩはその資料が古典とされる理由を探し、専門家は研究の流れの中から残すべき本を選ぶ。そこに図書館員が、所蔵状況や利用、蔵書ルールやこれからの蔵書構成を重ねて、最終的に判断する。ＡＩがさらに優秀になってきたら、この辺も賄ってくれるだろうか。

今のところ「選ぶ」という仕事には、人間の未来への希望が加味されている。そして、その『選ぶ』という仕事もまた、次の人へ渡っていく。図書館の書架には私よりずっと前の誰かが選んだ本が並んでいる。なぜその本を購入し、その後も残したのか、今となってはわからないものもある。研究テーマの変遷もある。それでも、誰かが選んだ一冊を、今私は手に取っている。私が残した本も、いつか別の誰かが手に取り、もう一度、残すかどうかを考えるのだろう。

言葉もきっと同じ。苦心して選び抜かれた若い言葉から、その結果隠し切れないすがすがしい風が吹いてくる。風は歌になり、リズムに乗り、また誰かの言葉になる。

さて、今日も棚から一冊抜いて、また一冊を戻そう。

（たかの　ゆうこ：医学系研究所図書室）

（１頁よりつづき）

少年少女のために

昭和25年３月号の『図書』によると、この年、岩波書店では「少年少女の讀み物百種委員會」なるものが発足しています。新制中学校を終るころまでの青少年におすすめできる本を選定することが目的で、委員は、羽仁説子、林達夫、松方三郎、光吉夏弥、宮本忍、中井正一、中野好夫、中谷宇吉郎、清水幾太郎、吉田甲子太郎、そして、『君たちはどう生きるか』の著者吉野源三郎でした。そして11名の委員のお名前を冠した依頼文が各方面の500名の人たちに出されたそうです。

これについての報告は、６月号に掲載が予定されていましたが、この委員会の仕事は「豫想（よそう）以上に厄介な仕事」であるという理由で、報告にはもうしばらく時間が必要であるという一文が５月号に掲載されています。そして、待つこと半年、12月号では、「少年少女讀物百種」の選定経過報告がなされていて、委員会によって選定された目録とは別に、183名の回答者が挙げてきたおよそ1200の書目のなかから得票数の上位20点を、外国篇日本篇それぞれに発表しています。

その上位20タイトルの日本篇は以下の通りです。宮澤賢治童話集、芥川龍之介童話集、小川未明童話集、**君たちはどう生きるか**（吉野源三郎）、**心に太陽を持て**（山本有三）、ビルマの竪琴（竹山道雄）、濱田廣介童話集、巖谷小波童話集、島崎藤村童話集、坊っちゃん（夏目漱石）、北原白秋童話集、**人間はどれだけの事をしてきたか**（石原純）、トンネルを掘る話（有馬宏）、山椒太夫（森鴎外）、古事記物語（鈴木三重吉）、吾輩は猫である（夏目漱石）、福翁自傳、**人間はどれだけの事をしてきたか**（恒藤恭）、**世界の謎**（石原純）、地図の話（武藤勝彦）。

なんと、『君たちはどう生きるか』をはじめとして、新潮社から出ていた『日本少国民文庫』の中から合わせて５冊（ゴチックで表示）の本が入っているのです。

『君たち』を挙げた人が脳裏に描いたのは、昭和12年の山本・吉野共著のものなのか、それとも昭和23年の吉野単独著のものなのか。岩波書店からアンケートを依頼される各方面の500人の方々なのですから、そりゃあもう・・・。

まあ、この件は今回ちょっと脇におくことにして、実は昭和25年12月には、もう一冊、『図書』の増刊号が出て、戦争のために一時進行を休んでいた岩波少年文庫の企画がいよいよ実現の運びとなったことを案内しています。岩波少年文庫といえば、この秋芸術院会員に推挙された石井桃子さんは、この岩波少年文庫の編集で初めて児童書を編集する仕事にたずさわることになったのです。以後現在に至るまでの半世紀の長きにわたって、石井さんが児童文学の世界で数々の業績を挙げておられることは周知のことです。

それで、石井さんと『君たちはどう生きるか』のあいだに何か関係があるのかですって？

まあそう先をお急ぎにならないで。（編集部）

No. 151（1997年12月20日）掲載

少年少女のために —続—

昭和20年の８月に戦争が終わって３年後、昭和23年には、戦前から国粋思想に堕することなく、「『少年倶楽部』の世界とは別の世界を見せて」少年たちの心をとらえた新潮社の少国民文庫が、執筆陣を一部刷新して再出発したことはすでにお話したとおりです。ぼつぼつ子どものための出版が少しずつ形になってきはじめるころで、翌々昭和25年には岩波少年文庫が刊行を開始しました。同じ昭和25年、岩波書店では、少年少女讀物百種委員會を発足させ、同年12月の『図書』誌上で〈少年少女讀物百種委員會選定目録〉を発表しています。

選定の方法は、同委員会委員の羽仁説子、林達夫、松方三郎、光吉夏弥、宮本忍、中井正一、中野好夫、中谷宇吉郎、清水幾太郎、吉田甲子太

郎、そして、『君たちはどう生きるか』の著者吉野源三郎の11名の委員のお名前を冠した依頼文を各方面の500名の人たちに出し、挙げられた1200点に達する多数の書目を参考にしながら、「各委員がそれぞれ百種を選んだ試案を提出し、その上で委員会を開き、一点ずつについて選定と推せんの意味と効果を審議し、委員の間に意見の分れた読み物は多数決によって」書目を絞っていき、最終的には外国古典篇、外国篇、日本篇と分けて計160点を選定目録として発表しています。

前号でご紹介したのは回答者から支持の多かった日本篇書目の20点でしたが、そこに名を列ねた「少国民文庫」５冊のうち、３冊が選定されています。吉野源三郎の作品は、『君たちはどう生きるか』『人類の進歩につくした人々』『人間の尊さを守ろう』の３冊が選定されています。以前にも触れたことがあるのですが、『人類の進歩につくした人々』も「少国民文庫」の１冊であり、しかも昭和12年の初版では山本有三著、昭和23年版では吉野源三郎著となっています。

吉野源三郎は自身も件の委員会の委員として選定する立場にあったのですが、それだけではなく、実は岩波書店に勤務していたのです。どうやら昭和12年「少国民文庫」の編集を終えてのち岩波書店に身を置いたようです。「少国民文庫」の編集にたずさわっていたころは、吉野源三郎著と記すことをはばかっていたのですが、戦後は雑誌『世界』の編集長として、また日本出版印刷労働組合の書記長として、或いは初の社会党内閣首相・片山哲のもとで経済安定本部顧問をつとめるなど、「進歩派の立場に立ってはば広い活動」を展開しています。

一方、作品の『君たちはどう生きるか』も、椎名誠など多くの青少年が「力をこめて」読み、「多方面の影響を」与えていきます。そして歳月は流れ、昭和57年岩波書店から文庫本として幾度目かのデビューをするのですが、それは少年少女のための岩波少年文庫ではなくいわゆる岩波文庫でした。ところが、同書はこれ以前にも成人向けのものとして刊行されていたのです。

昭和23年から昭和57年、この年月に『君たち』と少年少女にどんなことがおこったのでしょう。

（編集部）

No.152（1998年1月20日）掲載

『君たちはどう生きるか』の刊行から89年。
1995年～1999年の本誌連載「著者は誰でしょう？」をリバイバルでお届けしています。
連載も後半に入りました。続きもお楽しみに。
（編集部）

DMカタログ

ESTRELA
■2026年10月号
No.391/10月10日発行
B5判　64ページ
定価1,205円(税込)

〔特集〕政府政策としてのデータサイエンス・AI教育改革と高大接続

■大学等高等教育における数理・データサイエンス・AI教育改革の展開／
野口 貴秀（文部科学省 高等教育局 専門教育課 情報教育推進第一係 係長）

■高等学校における情報科教育の現状と課題／
鹿野 利春（京都精華大学教授／元文部科学省高等学校情報科教科調査官）

■大学・高専機能強化事業と日本の高等教育の改革／
安浦 寛人（国立情報学研究所 副所長／大学改革支援・学位授与機構 大学・高専機能強化支援事業選定委員会委員長）

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6　能楽書林ビル５階
TEL : 03-3234-7471　https://www.sinfonica.or.jp/

チャールズ・サンダース・パース
新装版
パース著作集
1　現象学　米盛裕二 編訳
2　記号学　内田種臣 編訳
3　形而上学　遠藤 弘 編訳

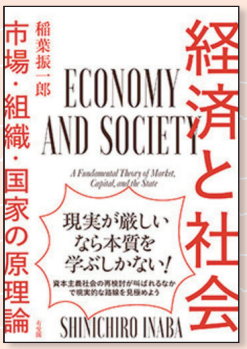
日本のパース研究の土台となってきた著作集に新たな解説を付し再刊。各3960円

井上紗奈・藤田益伸・森田理仁
研究者を目指す時に
知っておきたいこと

研究者という生き方を選ぶ　研究と付き合い続けたい人のためのガイド。2750円

勁草書房（けいそうしょぼう） TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854 ＊価格税込
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 https://www.keisoshobo.co.jp

経済と社会
市場・組織・国家の原理論



稲葉振一郎 著
四六判 定価2640円

なぜ「資本主義」は生き残るのか？
市場・組織・国家のトライアングルをモチーフに，社会学と経済学の世界を架橋する。経済思想史から現実の経済問題まで深掘る，著者渾身の集大成。

有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17 https://www.yuhikaku.co.jp/ 価格は税込

記者ハンドブック　第１４版
～新聞用字用語集～
定価2,090円（本体1,900円+税）

言葉の使い分けを知る充実のロングセラー。一般企業の企画・広報担当者から WEB ライターまで、文章を書くすべての人にお薦めする日本語用字用語集の決定版です。

出版目録「ふるさと発見　新聞社の本」第45号
【頒価】200 円（税込）

北海道から沖縄まで全国の新聞社 43 社が発行する出版物をすべて収載。

㈱共同通信社 〒105-7208 東京都港区東新橋１－７－１汐留メディアタワー
TEL 03-6252-6021 FAX 03-5568-1109
https://www.kyodo.co.jp

シリーズ累計10万部超の『英文詳説世界史』に待望の対訳本がついに登場！

英語入門者にやさしく、
世界史の学び直し
＋
英語力アップに最適！

日英対訳
詳説 世界史 上 下
Bilingual
WORLD HISTORY
Volume 1, 2
橋場 弦　岸本美緒　小松久男　水島 司　監修
定価各3300円 本体3000円＋税10%

山川出版社 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13 https://www.yamakawa.co.jp/

子どもの「勉強ができない」をほどく
12月上旬刊
発達特性から考える見立てと学習支援

川崎聡大［編著］（立命館大学産業社会学部教授）
奥村智人・荻布優子・松﨑 泰・三富貴子
片桐正敏・大谷康太［著］

「勉強ができない」とされる子どもたちの背景に目を向け、その子にとって少ない負荷で学べる自分に合った方法・条件を探そう。

●予価2420円（税込）●ISBN 978-4-535-56456-5

日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 https://www.nippyo.co.jp

増補版
日本の異国
在日外国人の知られざる日常
室橋裕和 2310円

2026年、海外からの移住者が400万人を超えた――
移民大国、日本の外国人コミュニティの現在を徹底ガイド。

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 https://www.shobunsha.co.jp/